

福總新聞

(毎月十廿廿日)二回
定価 一部十錢 壹ヶ月廿錢
廣告料 雑報欄五十錢
發行所 福島縣平町野山
市島 範 三
福島縣平町野山
福總新聞社

はリスク
目丁五町平
局薬邊野山

平町の事業界に光る

片倉磐城製糸株式會社 從業員待遇方法

賃銀支拂 慰安施設 永年勤続者の表彰 夜間作業は全廢

從業者利益分配

片倉製糸經營の各工場では十五日末日を以て仕事の勞資協調の實を擧ぐる爲出來高、糸量及製品の品位模範的の待遇方法を講じ等を嚴密に調査し採點法に依つて算出し一日金三十錢今その大體を示しますと左の如くであります

就業時間

自午前六時 至午後六時

休憩時間

自午前七時 至同十五分
自午前十一時十五分 至正午十二時四十五分

交代休憩
自午前十一時十五分 至正午十二時四十五分

毎月二回第一日曜第三日曜の定休日を設け、其他其地方の慣習や仕事の都合で臨時休業する場合もありません、而して夜間作業は全廢して居ります

賃銀支拂

は繰糸、糸再業手は一ヶ月を二期に分

金を工場主から左表に依つて贈呈されます。一年勤続二十圓半々年を、増毎に十圓を増額し勤続廿五年に達すれば金五百圓支給

又會社の利益は即ち從業員に依つて爲さるゝものとの見地から從業員に利益金の分配を實行して居ります。これは共存共榮の趣旨に基き勞資協調の本意に渡ふ事になつて居り、その資格は從業の年の三ヶ月以上の就業者に限ります。又永年勤続者に對しては左表に依つて現金又は物品を表彰として贈られます。三年(間の給料年手當給額の百分の一) 五年(三年間同右百分の四) 七年(二年間同右百分の五) 十年(三年間同右百分の六) 十五年(五年間同右百分の七) 廿年(五年間同右百分の八) 廿一年以上五年毎に(五年間同右百分)

慰安

工場生活に最も必要な事は、慰安であります。この點には出來得る限りの方法を講じつゝ、あつて、活動、浪花節、講談、落語等々時々開催し、素人演藝なども催され、工場員相互親睦を計る事に、なつて居ります。

運動

慰安の外に健康上最も必要な運動を行ふ爲め、春秋二回、園遊會、又は運動會を開催する。外團體々操等も時折催して身體の強壯に努めつゝ、あり慰安といひ待遇といひ實に模範との定評あるも争はれぬ事でありませぬ。

教育

作業の傍ら練習教育に意を用ひ専任の教師を置き修身、裁縫、家事等他日主婦として、必要な事項と智識を授け尙時々名ある宗教家を招聘し、又有益なる讀物を給與され精神修養向上に努むる事になつて居ります。

不思議な数字

12345679
で9は僕
すまりあ

急性下痢を 起した時の手當

某醫師の談
急性に下痢を起した時は絶食をなし下劑を用ひて体内の毒物を速かに排出する方法をとらねばなりません殊に疫病の様な猛烈な中毒症候にはヒマシ油を早く與

歌訓

朝起の家は旭がさしこみて貧乏神の居處も無し
見習ひは我身の爲の見習ひぞ人の見習ひすると思ふな
船と水なかくてこそ世は渡れ心の荒き浪風ぞ憂き
世は海に身はうきふねよ心をばかちぞと思ひ深くつつしめ
目鼻口手足は人の並なきご心一つを廢る身體ぞ
させるさへ心のやうに掃除せずがん首ばかり磨く世の中
負けてのく人を弱しと思ふなよ首引を見よ勝が倒るる
倒されし竹はいつしか起あがり倒せし雪は消え失せにけり

ら一つ僕の奇妙奇天烈摩阿へ早速醫師の來診を求めね不思議な力を御覽に入れて見ませう。
サテここに1から9までの内8だけ除いた数が棒に入つてゐます、この中であなた好みの数字をどれでもよいからいつて下さい
何に3ですつてよろしい
三九—二十七です
この27棒をの中の數に掛けるのです
さあどういふ答が出るかよ見て下さい

1	2	3	4	5	6	7	9
8	6	4	1	9	7	5	3
2	4	6	9	1	3	5	8
3	3	3	3	3	3	3	3

大根おろしでおろし、實も汁も一緒に食べて好しいのです、
これを一日三回、乃至四回の總量五百グラムから、一千五百グラム位を與へると一二位で、大低下痢が止まり、粘液が混つてゐても痛みがされ、熱が下り、まづ血液の下痢も急速になくなつて來るのが普通であると

産婆、看護婦 生徒(八十名)募集

今!入學の好時期
御希望の方は至急御申込み
新學期は四月七日午前十時より

平南町 平南看護婦學校

校長 清野キヨ
電話 三〇七番

募集

本部大臣 藤田女學校
願書提出 三月三十一日迄
詳細ハ 本校宛照會ノコト
場所 福島縣平町 電話 三二八番

募集

本部大臣 平陽女學校
願書提出 三月三十一日迄
詳細ハ 本校宛照會ノコト
場所 福島縣平町 電話 四四五番

募集

本部大臣 平陽女學校
願書提出 三月三十一日迄
詳細ハ 本校宛照會ノコト
場所 福島縣平町 電話 四四五番

産婆、看護婦 生徒募集

湯本町 (電話一〇八番)
樋口産婆看護婦學校
校長 堀七等 樋口リウ

自炊の便あり

申込期日 四月八日迄

自炊の便あり

申込期日 四月八日迄

自炊の便あり

申込期日 四月八日迄

自炊の便あり

申込期日 四月八日迄

湯本信用無盡株式會社の

事業と信用絶大 斷然同業者の群を抜く

本店を石城郡湯本町に置きは他社の及ばざる迅出張所を平町、郡山、原町浪速振りで加入者は今更一驚江、新山等の各町に設け縣を喫して有る有様であるの下庶民金融機關の王座として日に月に事業は向上發展して絶大の信用を蒐めてゐるの域に達し現今では縣下第湯本信用無盡株式會社はその契約高を抱擁しあると名に背かず信用第一をモツの評である尙同社では現況トとして創業以來進んでに甘せず一層馬力を掛け誠來たが數年前までは一般地實と確實を目標に取締役方人は眞に無盡の何なる社長鈴木康平を始め常務取を解さなかつたが最近知締比佐賢司の両氏以下社識の向上に伴て無盡を理解員一同が一心同体となり大して來たが就中同社は契約躍進を期してゐるので好評當時の約束を履行し給付金

河田鐵工所の 新築移轉

所主河田梅吉氏は石城の鐵られ適當の地を物色中の處工界に其人ありと知られ人平町七丁目決定着工以來情工業家として斯界に重き銳意工事進歩中であつたがをなしてゐるが、氏は過去過般峻切したので同所に移半生は立志傳中の人で茲に轉以來一層業務の増大を圖賑々までもない、最近事業り一大奮闘を爲しつゝあるの大擴張に伴い工場の狹隘を告げ工場移轉の必要に迫

馬場貫一君

浪江町會議員として常に町に就任したが氏は双葉郡幾治に盡し町民より絶大の信世橋村の素封家本縣農工任を博してゐる馬場氏は昨銀行の重役である馬場時房年推されて同町の消防組頭氏の子で少壯有爲の人、

消防組頭に就任以來同町のではない、小林所長赴任以來石城地方の土木事業は次第に完成の域に達し其實績防の爲めに盡してゐるので同町民より感謝されてゐる尙部下の組員よりは慈父の如く敬慕されてゐる。 評判の良し

金成忠義君

平町の東部鎌田町に開業以來頗ぶる評判の良し内科、小兒科、外科を兼ねた、金成忠義君は純粹の平子平町は勿論農村方面に多くの患を持つて居り頗ぶる親切新型自動車を買はして火急の場合に間に合せて來れるので好評である。

三三三三屋

一頭地を抜く 電話三三三三番 電話番號と其名號の名稱が同一といふので食肉店といひば直ぐ三三三三屋といふ位に頭にする三三三三屋の名聲はかくして勉強と健實とによつて一會知れ渡つてゐる實績を擧ぐる

小林所長の努力

豪放磊落にして 常に公平無私の人 土木事業の振興は其地方の盛衰に至大の影響あることは言ふ迄もないが本縣下に於て大郡と見られてゐるだけに土木事業は可成り廣凡に施行されねばならぬ。従つて平監督所長小林清吉氏の骨折りは並大底の努力

鹽豚

平町田町 電話三三三三番

集募徒生

非常時日本と婦人の職業 近代の日本婦人にも經濟の獨立を呼かけて参りました 婦人の職業として産婆看護婦と云ふ業は最も似つかはしい天職であります 卒業年限僅か一ヶ年 開業すれば収益も多大で家政の内助ともなり家庭の人となつても直接役に立つのは此の産婆看護婦の業であります 戦争と日本婦人としての覺悟 一旦緩急あれば戦時看護婦として愛する母國への奉仕に務めませう。 古い傳統の歴史と第一の好成绩を誇る 平町二丁目の石城看護婦學校へ 御入學下さい

石城産科看護婦學校

校長 鷹崎 千代

高久病院

平町田町 電話五二二番 醫學士 高久 忠 新瀉醫學士 赤羽 清 藥濟士 佐竹 菊 外科花柳病科 レントゲン科 内科小兒科 耳鼻咽喉科

工場擴張新築移轉廣告

毎度御引立を蒙り奉謝候陳者此度各位の御後援により從來の平町白銀町工場にては狹隘を感ずるに至り工場擴張のため左記へ移轉仕候間何卒倍舊の御援助相賜はり度く移轉御通知芳々御願ひ迄申述候 昭和九年三月 敬具

河田鐵工所

平町村七丁目 河田 梅吉 電話三二九番

自家醬油製造

諸原料(種菌麵)大勉強 特約販賣 山野邊藥局 平町五丁目角

鹿島村長

志賀直哉

鹿島郵便取扱所

鈴木一男

双葉郡浪江町

消防組頭 馬場貫一

小名濱町

水野裁縫女學校

織田齒科醫院 平町南町(電話四一六番)

金成醫院 平町鎌田町(電話三五八番)

市原醫院 平町縣前通(電話二一四番)

和洋銅鐵金物問屋

釜屋商店 平・五電話九・九九番

三井生命保險株式會社平代理店 諸橋久太郎